

第1回
札幌市

福祉のまちづくり賞

札幌市

札幌市福祉のまちづくり条例前文

すべての市民が様々な分野における社会活動に参加し、その役割を果たし、心豊かに、安全かつ快適に、そして安心して生活することができる福祉社会を創造することは、私たち札幌市民の共通の願いであり、また責務でもある。

北国札幌の先人は、積雪・寒冷などの厳しい自然に立ち向かい、潤いのある文化を創造し、生活する上で機能豊かな都市を築いてきた。しかし、障害や高齢あるいは疾病、妊娠などの条件にある者の視点に立ったとき、積雪・寒冷などの厳しい自然や、建物などの構造による物理的障壁、偏見などの意識上の障壁その他の日常生活又は社会生活における障壁存在のために、必ずしも社会活動への参加が容易な状況にあるとは言い難い。

真の福祉社会を創造するためには、自主、自立の意識をもった個々人の支えあいが不可欠であり、幼少時からの不断の教育によって培われる市民の強い連帯の絆を力として、このような障壁を取り除き、誰もが等しく様々な分野における社会活動に参加することができる福祉のまちづくりを積極的に推し進めなければならない。私たち札幌市民は、このような認識の下、新しい時代に向けて積極的にその役割を果たし、一体となってすべての人にやさしい福祉都市を実現する事を決意し、ここにこの条例を制定する。

札幌市保健福祉局保健福祉部福祉施設課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
電話 011-211-2972 / FAX 011-218-5179



さっぽろ市
02-G04-01-930
13-2-200

市長あいさつ

福祉のまちづくり賞の表彰にあたって

札幌市長 桂 信雄

札幌市では、障害のある方、お年寄りなど、だれもが安心して快適に生活できるまちづくりをめざして、平成10年12月に「札幌市福祉のまちづくり条例」を制定し、多くの市民が利用する施設の整備の推進など各種施策を推進しています。

しかし、真の福祉のまちづくりを実現するためには、施設の整備のみでなく、障害の有無や年齢の違いを超えた理解の推進やお互いの助けあいなど、いわゆる「心のバリアフリー」を推進していくことが大切です。

そのためには、市民のみなさん、事業者のみなさんの自発的かつ主体的な取り組みが不可欠になってきます。

今年度創設した「福祉のまちづくり賞」は、障害のある方、お年寄りなどの自立と社会参加を支援する活動を広く募集し、他に模範となる優れた活動を市民の皆さんにご紹介するもので、今後、毎年、実施していきます。

今年度は、すばらしい内容の活動が多く寄せられ、市民のみなさんの熱意を身をもって感じているところです。

受賞されたみなさんには、心からお祝いを申し上げますとともに、こうした活動が札幌市に広がっていくことを祈念し、ごあいさつといたします。

募 集 対 象

市内における、障害のある方やお年寄りなどの自立と社会参加を支援するための活動を対象としています。なお、活動の実施主体は、市民または市内に通勤通学する方、市内に活動の拠点を置く団体・事業者に限ります。また、原則として、1年以上の活動実績があり、現在も活動を継続していることを必要とします。

《例》

- ①年齢の違いや障害の有無を超えて、お互いの理解を深めるための活動
 - ・車いす体験など障害者の疑似体験講座の研修会
 - ・障害のある人とない人との交流の場の提供
- ②障害のある方やお年寄りなどの外出を支援する活動
 - ・バリアフリーマップの作成
 - ・施設などの整備状況に係る現状点検・情報提供
- ③障害のある方やお年寄りが安心して買い物をしたり、サービスを利用したりするための取組
 - ・手話のできる店員の養成
 - ・障害のある方やお年寄りへの接遇研修

選 考 経 過

募 集 期 間 : 平成13年8月1日~9月14日

応 募 活 動 数 : 16件

選 考 部 会 設 置 : 平成13年10月10日

福祉のまちづくり推進会議の部会として、設置を決定。

第 1 回 選 考 部 会 : 平成13年11月6日

応募状況の説明、審査基準の決定

第 2 回 選 考 部 会 : 平成13年11月13日

最優秀賞1点、優秀賞2点を選考

表 彰 式 : 平成13年12月4日 札幌市役所本庁舎 市長会議室

出席者: 受賞団体、札幌市長ほか



選 考 部 会 委 員

◎佐藤 朝子	光塩学園女子短期大学	教授
○西村 公男	札幌市社会福祉協議会	常務理事
神田 直也	札幌市身体障害者福祉協会	会長
黒田 澄雄	(公募委員) 地域支援クラブ	会長
塩川 敬康	札幌青年会議所	副理事長
関 正明	札幌市商店街振興組合連合会	副理事長
村上トミエ	札幌市ボランティア連絡協議会	副会長

◎部会長 ○副部会長 (敬称略)

最優秀賞

むくどりホーム・ふれあいの会

代表 柴川 明子(しばかわ あきこ)さん



藤野むくどり公園とむくどりホーム



手引き(目の不自由な人体験)

活動内容

バリアフリー公園「藤野むくどり公園」の整備の際のワークショップ「むくどりの会」を母体とし、公園完成後、柴川夫妻が自宅を開放し、「むくどりホーム・ふれあいの会」を発足しました。

公園と屋内のサークルルームがあいまって、「障害のあるなしに関係なく、仲良く元気いっぱい遊ぶ子ども達」そして親たちの交流を深めています。

様々な人達がボランティアとして、障害のある子とない子との掛け橋的役割を担い、多彩で楽しい手作りの行事を通じ、人と人との出会いふれあいの魅力あふれる場となっています。遠方からの子どもも多く、障害の種類、程度も多様です。

地元住民も自らの公園との自覚と誇りが強く、諸行事への参加・協力とともに、日常的にゴミ拾い、草刈り、雪かき等の手伝いをしています。

受賞理由

障害の有無を超えて、一緒に遊び、ふれあえる場を提供することにより、お互いの理解の促進、気軽に助けあう環境づくりに役立っている。

また、地域と一体になったまちづくりを推進している点を高く評価する。

優秀賞

札幌開成高校ユネスコクラブ

代表 齋藤 千津(さいとう ちづ)さん



スタンプラリー

活動内容

1999年より、春秋の年2回、「仲良くつくる思い出会」を実施しています。

「札幌市手をつなぐ育成会」の父母と協力し、地域の知的障害を持った小中学生を学校に招き、交流を深める活動を実践しています。

この秋6回目。札幌市手をつなぐ育成会のメンバーを学校に招き、ゲームやお話を通して楽しい思い出を作っています。

受賞理由

知的障害をもつ小中学生との交流活動を行うことにより、年齢が若い頃から、お互いの理解を深める活動に取り組んでいることを評価する。



体操



お菓子を食べてトーキングタイム



「仲良くつくる思い出会」プログラム

優秀賞

北野地区福祉のまち推進センター

代表 一瀬 ヒロ(いちのせ ひろ)さん



配食サービス



北野福祉まつり (車いす体験)

活動内容

年一回、地域の皆様を対象に障害のある方、お年寄り、児童などへの理解を深める催しとして「北野福祉まつり」を開催しています。

除雪ボランティアとして、地元の中학생、高校生約90名(北野中学校、北野台中学校、清田高校)が参加しています。

一人暮らしのお年寄り宅への訪問活動をしています。

ひきこもりのお年寄りや障害のある方を対象とした「きたのくらぶ」を開催しています(レクレーション、体操、遠足など)。

受賞理由

福祉のまち推進センター創設時から、大変精力的に活動を続けており、市民が地域において取り組める福祉のまちづくり活動として評価する。



北野夏祭り（特別養護老人ホームの高齢者を招待）



除雪ボランティア（清田高校の生徒による）



北野福祉まつり（育成太鼓）

札幌市福祉のまちづくりフォーラム2001

平成13年12月8日(土)

札幌駅南口地下街アピア・ライラックホール

●同時開催：札幌市福祉のまちづくり賞受賞活動パネル展 平成13年12月7日(金)～11日(火)

札幌市福祉のまちづくり賞活動発表



最優秀賞 むくどりホーム・ふれあいの会
代表 柴川 明子さん

「むくどり公園」は、5年前に札幌市により南区藤野にバリアフリー公園としてつくられまして、公園が目的に沿って有効に使われるように、「むくどりホーム・ふれあいの会」を立ち上げました。

「むくどり公園」の面積はテニスコート2面分くらい、「むくどりホーム」は公園前の自宅開放で2階建ての一軒家と横にある160㎡の駐車場、たったこれだけのスペースでいろいろな人と人とのつながりが広がっています。

このバリアフリー公園ができる前には、地域住民や障害のある子供の親、障害児教育関係者、ボランティアが集まって相談会をしました。バリアフリーにするためには、ハード面のバリアのほかに、ソフト面での深刻さがあることを、障害のある子供のお母さんたちのお話から感じて、そういうことを解決する必要がある、そのためのふれあいの拠点として「むくどりホーム」を発足しました。

公園が完成してからは、週2回ずつ「むくどりホーム」を開いています。きょうも、みんながクリスマス会を一生懸命協力してやっているところです。

原則として、火曜日と土曜日の10時から4時までの都合のいい時間に、予約なしの自由参加ですから、その日だれと出会えるか、何人来るかは全く予測が付きませんが、多い日は多い日なりに、少ない日は少ない日なりの楽しみ方があります。平均すると1回に40人くらいで、その中の1割くらいが障害のある子供、年代もさまざまです。

内容は、自由に遊ぶほかに、公園の掃除をしたり、目の見えない人を案内するための手引きや車いすの講習会、点字、手芸、アンデルセン手芸、手話、陶芸などの講習会、障害を理解するための講演会、障害のある子供の親から話を聞く会、紙芝居や絵本、ピアノやミュージックテーブルなどに合わせた音楽の集いなどをやっています。

オカリナコンサートやこいのぼり大会、公園開園記念会、クリスマス会、雪遊び会などのイベントもしています。

そのほかに、チャンスを見逃さずにふれあいを持つように、突然の集まりなども行って、皆さんの出合いを大切に活動しています。

3カ月ごとに「むくどりホーム便り」を発行して、予定表とか参加者の感想や報告などを掲載しています。

「むくどりホーム」は、ふれあいの場所、友達づくりの家を目指しています。今、小学校や中学校の総合学習の場として、授業の中で生徒が来たり、児童会館の職員、大学生、専門学校生、高校生たちのボランティア研修の場としても使っています。

先日は、これまでの歩みを振り返った「むくどり公園開園5周年記念誌」をまとめ、これからまた新しい出発をするときだなどと思っています。

その記念誌に感想を寄せてくださったあるお母さんの言葉を大変大事な言葉として受けとめています。そのお母さんは、公園ができる前のワークショップ、相談会のときからずっと参加していて、あいの里という大変遠いところから「むくどりホーム・ふれあいの会」にも参加していました。だんだん子供さんが大きくなると、お母さんが移送するのも大変困難になってきます。そのお母さんが「全部でなくてもよいのです。ぶらんこ1台でもバリアフリー型があると障害のある子供たちも地域の子供たちと一緒に遊びながら地域に触れ合うことができるようになると思うのでぜひ各地域に広がってほしいのです」と書いておられます。

地域のふれあいを大切に考える方たちがみんな集まって、これからどのようにしてバリアフリーを進めていったらいいかを相談し合うことも大きな課題であると思っています。



優秀賞 札幌開成高校ユネスコクラブ
代表 齋藤 千津さん

開成高校は、札幌市立の東区にある生徒数1,160人の学校です。

ユネスコクラブは、ボランティアと国際理解を深めることを目的に活動しています。部員数は、3年生を含めて24名、1、2年生で13名です。

ふだんは、毎週1回メンバーが交代で、学校の近くの保育園と老人ホームでお手伝いをさせても

らっています。そして、1年に2回春と秋に今回賞をいただいた「仲良くつくる思い出会」を開成高校で行っています。

この会は、先輩方が、障害のある子供たちの手伝いをする機会があったときに、自分たちも子供たちに楽しんでもらえる機会をつくりたいということで始まったものです。ことしの11月3日には第6回の「仲良くつくる思い出会」を行いました。

今までは、学校内を一緒に散歩したり、ダンスをしたり、ゲームをしたりが多かったのですが、ことしは初めて、映画を見てみようということになり「となりのトトロ」のビデオを見て楽しみました。

このような活動を通して、障害をあまり意識しないで一緒に楽しむことができ、障害のある子供たちもいつも楽しんでくれてとてもうれしく思います。これからも地道な活動を続けていきたいと思えます。



優秀賞 北野地区福祉のまち推進センター代表 一瀬 ヒロさん

北野地区福祉のまち推進センター運営委員長の一瀬でございます。

北野地区は清田区内にある5つの町内会連合会の中の一地区です。札幌市の中で一番東側に位置する、人口22,492名、その中で70歳以上で一人で暮らしておられる方が209人おられます。高齢化率は17%以上で福祉のまち推進センターで心配りしなければならない身体に障害をもっておられる方々の数は、福祉のまち推進センターとしてはつかみづらい数です。そこで今年度なかなか外に出てこられない障害者の方や、ひきこもりの高齢者のための機能回復訓練事業を、地域内にある2つの在宅介護支援センターや、区の保健センターと福まちの4者の共同事業として、「きたのくらぶ」を開催しています。参加者もだんだん増えて今では50名程の登録者名簿になりました。

札幌市が平成7年頃から「地域福祉社会計画」を策定し福祉のまち推進センターがうまれました。地域で70歳以上で一人暮らしの方や、1級、2級の障害者手帳を持っている方々を見守っていきなさいというものでした。今、北野地区では年齢を問わず、ご夫婦で弱い方もふくめて見守りや声かけ、ふれあい活動を進めるようにしています。

「北野福祉まつり」は3年ほど前から地域の皆さんにできるだけ広く福祉を知っていただきたいと始めた事業です。ここでは一般市民、子育て中の

若いお父さんやお母さん、児童や高齢者、身体に障害を持っておられる方、中・高校生にはボランティアとして、参加していただきます。北野に住んでいる喜びを感じていただくことが目的です。

特に今年は国際ボランティア年でもあるし、来年は札幌に世界中から大勢の障害者の方々が集まって、会議が開かれる年にあたるということもあって「福祉まつり」もボランティア年と障害者年にスポットを当てたプログラムを作りました。記念講演には、北海道盲導犬協会佐々木会長さんに、お願いいたしました。会長さんご自身盲導犬を連れておられます。開会には札幌育成太鼓の皆さんが、勇壮な太鼓の演奏で幕が開き、花を添えてくださいました。見物している地域の皆さんと障害を持ちながら力強く演奏する皆さんが、一つになったお祭りでした。北野地区では色々な事業に中・高生のボランティアが参加しています。冬期間の除雪ボランティアもその一つです。平成9年頃からだんだん除雪が困難な高齢者が、増えてきて近所の人達で除雪をするのですが60代で除雪に困難なお宅に、80代の元気な方が除雪する、とんでもない実態もでてきました。これではいけない、何とか若い力に頼りたいと中学校や高等学校に声をかけてみました。野球部やバレー部の生徒達が「いいよやるよ」と除雪に参加してくれるようになり、2つの中学校と清田高校で、100名以上の生徒が毎年参加しています。今年も51軒の除雪を希望されたお宅がありました。生徒達には大変厳しい約束事ですが朝起きた時10cm雪が積もっていたら学校へ行く前に除雪をして登校すること、朝除雪を忘れたら、お年寄りや病院へ行くことや、デイスターの車が入ることができなくなることや放課後また雪が10cm積もっていたら除雪をしてから家に帰りなさい。夜中に救急車や消防車が入るような時のために厳しい約束にはなるのですが、一生懸命やっています。この事業も5年になります。除雪をする生徒は勿論ですが先生方や保護者の皆さんにも大きな負担の掛かる大変な作業になりますし地域の大人達の理解も必要です。今シーズンは3月31日までまだまだ続きます。福まちの仕事はこれでもいいということはありません。私の持ち時間になりました。これで終わらせて戴きます。ありがとうございました。



パネル展の様子

シンポジウム「バリアフリー社会の実現」～福祉のまちづくりの推進をめざして～



コーディネーター
千葉 博正さん
札幌大学教授

専門は都市計画・交通計画。

札幌市福祉のまちづくり推進会議委員、社会福祉審議会委員、小樽市都市計画審議会会長ほかを歴任。西岡地域情報化推進協議会（Hop-Net）ほかさまざまなまちづくり活動を実践。

シンポジウム

福祉のまちづくり賞と心のバリアフリー

段差をなくすといった物理的なものだけでなく、人の心の持ち方を変えなければ、本当のバリアフリー社会はできないのでは？

賞を選ぶのは、優秀なものが多くて本当に大変でした。

自分がこうしてほしいと思うことを人にするという心の支えあいこそがバリアフリーのもと。

「理解の促進」「知識の普及」「創造性」「環境づくり」「外部への影響」「将来性」の6つをポイントに審査しました。

いつ自分が、自分の家族がそういう立場になるかわかりません。

パネリスト
佐藤 朝子さん

光塩学園女子短期大学教授
専門は高齢福祉・コミュニケーション論。札幌市福祉のまちづくり推進会議委員、介護保険事業計画推進委員会副会長ほかを歴任。平成10年度男女共同参画社会づくり功労者内閣官房長官表彰受賞。



コーディネーターからの一言

「心のバリアフリー」がとても大切だと改めて感じました。



シンポジウム

地域における福祉のまちづくりと今後の課題

一人ひとり存在価値があるように、
きっと神様はわざと違えてつくったのです。

障害を持つ可能性は誰にでもある。
それが人間として生きるうえでの
仕組みです。

障害のある人が把握しきれず、障害者福祉
に取り組みにくいという課題もあります。

福まちの課題のひとつは
地域ボランティアが
育成されることです。

子育て支援事業も
これからの大きな課題です。

パネリスト
西村 公男さん

札幌市社会福祉協議会常務理事
平成9年より札幌社会福祉
協議会に勤務。札幌市福祉の
まちづくり推進会議委員、札幌市市民憲章
推進会議監査委員、札幌市老人クラブ
連合会理事、北海道障害者スポーツ
振興協会理事ほかを歴任。



シンポジウム

住宅のバリアフリー

狭さが最大のバリアだという
ことを覚えて下さい。

鎌倉・室町時代から平均身長が約 15cm
伸びているから、部屋も狭くなったのです。

家を建てる基準は、尺貫法ができた
鎌倉・室町時代から同じなのです。

生活用式の洋風化や電化製品の増加が
進んで、スペースが狭くなっています。

スペースを広げるだけで、左右や足元からの
ケアができて介護が楽になります。

パネリスト
米木 英雄さん
1級建築士

福祉のまちづくりサポーター
として、住宅のバリアフリーや
まちづくりの研究・提案を行っている。
札幌市福祉のまちづくり推進会議委員。
著書に「在宅介護時代の家づくり・
部屋づくり」(寿郎社) など。



コーディネーターからの一言

住宅の改良はこれから細かい工夫が進むでしょうね。

ま ・ と ・ め

佐藤朝子さん

- ・ ホームヘルパーに来てもらうことをためらうなど、我が家と社会の間に知らず知らずのうちにバリアを築いている人が多いのではないのでしょうか。
- ・ だれでもできるバリアフリーは一人一人の問題なので、自分たちの心の持ち方を変えていきたいと感じています。

西村公男さん

- ・ わたしたちは戦後ずっと純化・純正・効率ばかりを追い求めてきました。
- ・ 世の中にはさまざまなものが存在することを忘れがちです。地域との話し合いのなかでそういう視点も大切ではないかと思っています。

米木英雄さん

- ・ 日本の住宅は同じ基準で作られていますから、全国どこも同じ問題を抱えています。
- ・ 狭さの解消は、高齢化社会という時代の要請だと思います。
- ・ 全国に広がっていくよう、地道な努力をしていかなければならないと思っています。

千葉博正さん

- ・ 障害者も健常者も、違和感なく非常に和やかにすごした経験があります。
- ・ みんなで支えあって過ごせるような心のあり方が実現できたら…と思います。



特別
ゲスト

木村 一裕さん(秋田大学助教授)

- ・ 地域がなにかに向かっていろいろな工夫をしていくように日本もなればいいと思います。
- ・ どういう交通システムを組み合わせるのが一番か考えるべき変革期を迎えています。
- ・ アンケートよりワークショップ形式の方が問題抽出に向いているでしょう。

会場とのやりとり

フロア1 歩道橋に疑問を感じます。バリアフリーの社会ですから、歩行者が優先的に平面を歩けるようにすべきではないでしょうか。私は歩道橋がなくなるのが夢だと思います。

フロア2 歩道橋はとても不便ですが、なくして全部信号交差点にすると、車の渋滞の問題が生じます。歩道橋に自動昇降装置をつけるというやり方なら折り合いがついたのではないのでしょうか。

木村 歩道橋は上下移動があるので、本来はないほうがいいと思います。今の車に頼った交通体系の中では、大量に車を通さなければならないので歩道橋が存在しますが、車や公共交通を含めて、交通体系を考えてかなければなりません。

千葉 限られた道路空間を自動車のためにたくさん使うのを止めて、その空間を再配分し直す、歩道をもっと質の高いものにして、歩行者の利便性を高めるようにしようというのが国際的な潮流です。そういう方向で道路空間の整備もだんだん進んでいくと思います。